シリーズ　福島市の縄文遺跡

第１１回　地蔵原遺跡（荒井）

地蔵原遺跡は荒井小学校から南西方向に約２ｋｍ、福島県消防学校から福島県畜産試験場の間を中心に、東西に細長く広がっている遺跡と推定されます。

平成１２年に福島県消防学校の改築工事に伴う発掘調査が実施され、縄文時代後期（約４，０００年前）の集落の跡であることがわかりました。発掘調査では竪穴住居の他、子供のお墓と考えられる埋甕や、動物を捕まえるために掘られた落とし穴などが見つかっています。竪穴住居は丸い形で、中央には石を四角に組んで作られた石囲炉がありました。また、表面に細い棒を連続で刺して文様をつけている縄文土器が見つかっており、その特徴から縄文時代後期初め頃に新潟県を中心に流行した土器と考えられます。

直径４ｍ程の円形の竪穴住居で、中央には四角形の石囲炉があります。

見つかった新潟県の土器は、直径２０ｃｍほどの浅い鉢型の土器で、下半分がすすけていました。

用語解説

「石囲炉」

縄文時代の竪穴住居の多くは、住居内に炉を持っています。炉の形は時期によって様々ですが、宮畑遺跡や地蔵原遺跡をはじめ、福島市内の縄文時代後期の集落では石囲炉とよばれる石で火床を囲った炉が作られています。中でも後期の初め頃には、大きめの石を使った四角形の炉が見られるのが特徴です。

地蔵原遺跡でみつかった竪穴住居の石囲炉

「アスファルト」

天然アスファルトは新潟県から青森県にかけての日本海沿岸と北海道の一部で産出しており、縄文時代には接着剤として石鏃の固定や割れた土器の接合に使われています。東北地方の縄文時代後期から晩期の遺跡では、アスファルトの付着した石器が見つかっていますが、宮畑遺跡からはアスファルトの付着した石器の他、アスファルトの塊が見つかっています。宮畑遺跡で見つかったアスファルトも、日本海沿岸部の原産地から運ばれ、石鏃の固定などに使われたものと考えられます。

宮畑遺跡で見つかったアスファルトは縄文時代後期のもので、直径６ｃｍほどの器に詰められていました

編集後記

いよいよオープン間近となりました。この第１４号がオープン前の最後の“じょーもぴあ宮畑だより”となります。第１号から５年間、広く市民への広報のために尽力された編集委員の皆さんに、まず、感謝の意を表したいと思います。ご苦労様！！

この号が届く頃には、新しい体験学習施設が宮畑の台地にその雄姿の片鱗を見せていることでしょう。子供から大人、高齢者まで幅広い人々に愛される施設となってほしい。そして、この新しい環境の中で、新しい感動をこれからも発信していきたいと思います。

じょーもぴあ宮畑だより

第１４号
平成２７年３月

☆“じょーもぴあ”とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

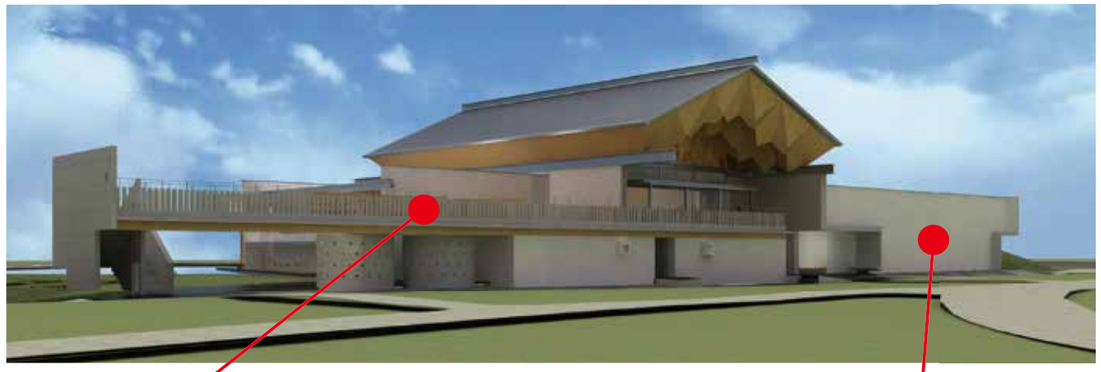
発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人　編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班

整備の様子をのぞいてみよう　第１０回

「じょーもぴあ宮畑」は平成２７年８月８日（土）に全面開園します！

現在も、じょーもぴあ宮畑のメインの建物となる体験学習施設の建設工事は進行中ですが、展示室や縄文工房には屋根がかかり内装の工事が行われ、その後、正面部分の大きな切妻屋根の工事が進んでいきます。

開園まであと５ヶ月です。２階の展望デッキにのぼるとじょーもぴあ宮畑を高いところから眺められ、普段とは一味違った景色が楽しめます。開園をお楽しみに！



展望デッキからの眺め

体験学習施設の屋内工事も進んでいます

じょーもぴあ宮畑利用案内

○名　　称　宮畑遺跡史跡公園（史跡公園じょーもぴあ宮畑）
○所 在 地　福島市岡島字宮畑地内
○施　　設　縄文時代の復元建物、芝生広場、子供の遊具、駐車場、四阿、水飲み場、休憩棟（トイレ併設）
○駐車場・トイレの開放時間　開錠：午前８時３０分　　施錠時間：午後５時３０分
○交通手段　・東北自動車道福島飯坂ＩＣから車で１５分
　　・福島駅東口③番バス乗り場（月の輪行き）向鎌田バス停より徒歩７分

じょーもぴあ宮畑の現在の環境放射線測定値は平均で０．０９～０．１２マイクロシーベルト／時間です。

じょーもぴあ宮畑の活用事業　この１年

オープンカレッジ、フィールドワーク

　じょーもぴあ遺跡の案内人の主催事業です。オープンカレッジでは福島県考古学会長玉川一郎先生の『宇多・行方郡と鉄生産』、福島県立博物館学主任芸員の高橋満先生の『縄文時代の塩作りの考古学』、じょーもぴあ・遺跡の案内人紺野義行副会長の『宝の山　信夫山の歴史と文化』とバラエティ豊かな講演がならびました。また、フィールドワークでは講演に引き続き紺野義行副会長の案内で信夫山に刻まれた福島の歴史を訪ねました。

『縄文時代の塩作りの考古学』講演の様子（10月21日）

『宝の山　信夫山の歴史と文化』講演の様子（１１月４日）

講演会参加者たちは熱心に聞き入っていました（11月４日）

フィールドワーク『信夫山の史跡巡り』のようす（１１月29日羽黒神社にて）

じょーもぴあ宮畑をきれいにする日
（7月27日）

　じょーもぴあ宮畑では初めての試みとして、市民による園内の美化作業を実施しました。

　当日は東部・大波地区を中心に５２名が集まり、宮畑遺跡の除草作業を行いました。

当日は朝７時に集合しました。休憩棟の周囲は丁寧に草をむしりました。

平成 26 年度の主な事業

◆総会（４月）
◆宮畑ミステリー大賞募集開始（５月）
◆案内人じょーもぴあ宮畑現地見学会（6・7・8月）
◆縄文探検隊（７～１１月）
◆じょーもぴあ宮畑をきれいにする日（7月）
◆宮畑縄文人倶楽部（８・10月）
◆じょーもぴあで夏休みの自由研究（8月）
◆宮畑ミステリー交流会（８月）
◆じょーもぴあ宮畑まつり（１０月）
◆縄文ワークショップアンギン編み講座（10月）
◆オープンカレッジ
　『福島の歴史と文化』（１０・１１月）
◆フィールドワーク
　『信夫山の史跡巡り』（１１月）
◆宮畑ウォーク（１１月）

「教育活用の手引き」が完成しました

　じょーもぴあ宮畑を学校教育で活用するために、「教育活用の手引き」を作成しました。この資料は市内すべての幼稚園・小学校・中学校に配布されるもので、この手引きをもとにしたじょーもぴあ宮畑の活用が期待されます。

縄文探検隊

　市内小学校５年生から中学校２年生を対象にした縄文探検隊には、今年も４１名の児童・生徒が参加しました。参加者たちは勾玉作りや弓矢・火起こしなどの縄文体験や、宮畑遺跡のフィールドワーク、縄文土器づくりなど、五感を使って縄文時代の暮らしを学びました。

熱心に勾玉作りに取り組みました（第１回　７月26日）

宮畑遺跡で復元展示の説明を受けました（第2回　8月30日）

実物をお手本に縄文土器を作りました（第3回　9月27日）

作った土器は野焼きして完成です（第4回　11月15日）

アスファルトの源流を訪ねて
（10月23日、11月3日）

　じょーもぴあ・遺跡の案内人は天然アスファルトの原産地である新潟市金津を訪れ、実際に原油が湧き出る場やアスファルトの露頭を見学し、アスファルトについて学びました。また、その際に採取した原油を縄文土器で煮詰め、アスファルトを作る実験にも挑戦しました。

斜面の一角に、硬化したアスファルトが顔をのぞかせています。すぐ近くには原油が湧き出している地点がありました。（新潟市にて　10月23日）

土器の中に原油を入れ、おき火でじっくり加熱しながら煮詰めていきます。（11月3日）

　これらの記録・成果は体験学習施設の展示に活用する予定です。

宮畑縄文人倶楽部
土器を作る会（8月30日）
料理を楽しむ会（10月19日）

　宮畑縄文人倶楽部は、一般市民を対象に縄文時代にこだわった体験活動をするイベントです。まずは縄文土器づくりに挑戦しました。さらに今年は縄文土器を作るだけではなく、縄文土器で料理を楽しみました。キノコやクリなど山の幸をふんだんに入れた鮭鍋ですが、味付けは縄文土器で海水を煮詰めて作った塩を用いました。

宮畑遺跡の発掘から整備まで
第 10 回 「確認調査③」

　宮畑遺跡は平成 10 年度から始まった確認調査によりその様相が明らかになってきました。今回は縄文時代中期の集落の様子をご紹介します。

　宮畑遺跡では縄文時代中期後葉には集落が作られていたことがわかっています。宮畑遺跡で見つかっている縄文時代中期の住居の特徴は、屋根に土をのせていたこと、住居内の炉は複式炉と呼ばれる縄文土器と石を組み合わせた大型の炉であることです。

複式炉を持つ住居跡。石を組んだ部分で火を焚き、土器を埋めた部分にはおき火や灰を貯めていたといわれています。（49 号住居跡）

　また、その半数近くの竪穴住居は、住居の中に赤く焼けた土がたまっていました。焼けた土は、屋根にのった土が火災によって焼け落ちたものです。

　住居内に土器などが残されていないことが多く、土屋根の竪穴住居は燃えにくいにも関わらず全焼していることから、わざと燃やされたものと考えられます。

竪穴住居の中にたまっている焼け土は、屋根の土が熱によって硬化したものと考えられます。（20 号住居跡　右上は焼け土の拡大）